

令和8年 2月発行
中濃県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育担当:塚原
〒501-3756 美濃市生櫛 1612-2
TEL: 0575-33-4011 (内線210)



かてきょー

関市 下有知保育園 食べるの大好き！ ～食べるについて学ぼう～



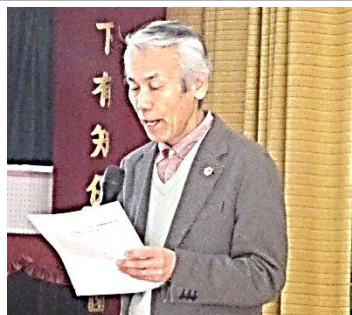
関市の下有知保育園では、令和7年11月27日(木)に、年少児童親子を対象に「食育講演会&給食試食会」を開催されましたのでご紹介します。

この日の献立は、7種類の食材をまんべんなく取り入れた「まごわやさしいメニュー」でした。

【開催の目的】

親子が毎日の生活の中で、食の大切さを心がけられるように企画しました。

【当日の様子】



「三つ子の魂百までと言いますね。3歳までに覚えた味は、ずっと一生覚えているのですよ」村井園長先生の食育講話を、保護者の方々はうなずきながら聴いてみえました。

給食調理室の調理員さんに、子どもたちが直接「いただきます」「ごちそうさま」が言える環境が整っていました。



2歳児以上がそろって給食をいただける広いランチルームで、みんなで楽しく会話しながら給食試食会が行われました。「園だと、家よりもよく食べています。雰囲気がいいですね」「豆とひじきのサラダが美味しかったので、家でも作ってみます。レシピを教えてください」と、保護者の方々は「まごわやさしいメニュー」に舌鼓をうちながら、賑やかに交流を行っていました。

【取材を終えて】

下有知保育園では、食育目標を「食べるの大好き」として食育を推進しています。毎月の園だよりの中に「食育だより」のコーナーがあったり、献立表以外に「献立一口メモ」が配られたり、下有知保育園は食育の話題でいっぱいでした。三つ子の魂百まで・・・今日の味も子どもたちは一生覚えているのだらうなと思うほど、美味しくて栄養たっぷりの給食でした。

関市生涯学習課主催 小中学校家庭教育学級講演会

今とまの子育て～より良いコミュニケーションを～

～家庭が、笑顔あふれる明るい場であってほしい～

関市では、令和7年11月27日(木)に、関市生涯学習課主催の「小中学校家庭教育学級講演会」「出前子育てサロン」が開催されましたので、メイン会場となった桜ヶ丘中学校の様子をご紹介します。

【開催の目的】

子どもの主体性を大切に、親子のより良い関係を築けるようワークショップ型の講演会を企画しました。さらに、保護者同士が気軽に交流し合い、子育てのヒントを掴んだり、悩みや不安等を軽減したりすることができるよう関市家庭教育サポーターによる「出前子育てサロン」を講演会とセットで開催しました。

【当日の様子】

【子育て講演会】



メイン会場(対面): 桜ヶ丘中学校

サブ会場(オンライン): ・下有知中学校・桜ヶ丘小学校
・田原小学校・富岡小学校
・洞戸小学校・上之保小学校



講師は、色育アドバイザーの渡辺佳奈子氏。
「人生の中で、子育てができる時間はほんの少ししかありません。かけがえのない時間を大切に。そして何があってもうちの子の応援団でいてあげてください。もうひとつ、あなた方ご自身の時間も大切になさってください」と、保護者に伝えられました。

講演を聴くだけでなく、4人チームになって「自己認識のワーク」をしたり、色鉛筆を使ってぬり絵をするなどのワークショップが行われました。

【出前子育てサロン】



参加 全員が参加
尊重 互いを尊重
守秘 口外しない



心がほっこりしたお菓子の包みとお茶

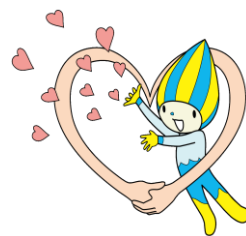
家庭教育サポーターでもある桜ヶ丘中学校の家庭教育学級長が、3つの約束(参加、尊重、守秘)を確認された後、子育てサロンが始まりました。誰もが話しやすい和やかな雰囲気作りがなされており、どのグループも和気あいあいと交流が行われました。

【取材を終えて】

関市では、保護者の負担を軽減し、参加しやすく、子育ての仲間作りができるよう、講演会をハイブリッド開催にしてどの学校も自校から受講できたり、サロン型を進行する家庭教育サポーターを派遣したりするなどの様々な工夫をしています。今回は、今年度2回目の生涯学習課が企画する家庭教育学級講演会で、7校が参加しました。

講演会後に桜ヶ丘中学校と下有知中学校で開催された「出前子育てサロン」も、「サロン型をやってみたいけど、不安です」という家庭教育学級委員の声に応じて、生涯学習課が家庭教育サポーターの派遣を行い実現しました。今後も多くの学校で活用されることを期待しています。

郡上市立白鳥小学校 PTA主催 白小サロン



～話してスッキリ、聞いて「なるほど！」～

郡上市立白鳥小学校PTAでは、令和7年11月22日(土)に白鳥ふれあい創造館で「白小サロン」を開催されましたのでご紹介します。

【開催の目的】

悩みをお持ちの保護者が、気軽に話したり相談できる場所を作りたいという願いから、PTA本部役員会が企画しました。

【当日の様子】



白小サロンは、学校ではない施設を使い、夜間に開催しています。

この日も、PTA本部役員、家庭教育支援チームの方々、参加希望の保護者が集い、和やかな雰囲気で開催されました。

「白小サロンは、解決策を考える会ではありません。いかに保護者さんに安心していただけるかを大切に開催しています」PTA会長の言葉です。

【「参加してよかった！」とさせていただくための3つの合い言葉】



参加者はみんな平等です。全員が話せるように心を配ります。



お互いの意見や感じ方を尊重し、否定や押しつけをせず、パスもOKです。



信頼関係のうえの交流とし、個人情報に関わる内容は口外せず、デリケートな話題や悪口は無しです。

【取材を終えて】

参加された保護者が、明るい笑顔で元気になって帰っていかれる姿が印象的なサロンでした。

この白小サロンがきっかけとなり、郡上市家庭教育支援チームはPTA連合会と連携して、お子さんを持つ保護者のためのサロン「ゆるりの会」を発足されました。1つの学校の優れた活動が、市内全体の保護者の会に広がっていきました。

関市立旭ヶ丘中学校 災害から命と暮らしを守るために ～「寄り添う」「最後の一人にこだわる」～

関市立旭ヶ丘中学校では、令和7年11月21日（金）に、親子人権講演会を開催されましたのでご紹介します。

【開催の目的】

令和6年能登半島地震における被災地の様子や災害支援の実態を知ること、人権について親子で考えることができる機会を持ちたいと願って企画しました。

【当日の様子】

＜講師＞

NPO法人：レスキューストックヤード
浦野 愛 氏

＜講演名＞

「災害から命と暮らしを守るために、
できることからはじめよう」
～能登半島地震・穴水町の事例から～



【生徒の感想】

- ・人との関わりのすばらしさを知り、自然災害への見方が変わりました。今まで、テレビや新聞で「死者〇〇人」と報道されても、そのひとりひとりに家族や悲しんでくれる人がいて生活があるということまで考えられませんでした。浦野さんの「寄り添う」「最後の一人にこだわる」の言葉がとても心に残りました。災害は困るけど、人の温かみが分かる機会になったらいいな。（1年女子）
- ・「善意だと思って支援したことが、実は相手への押しつけだったのかもしれない」の言葉が印象に残りました。これから生活していく中で、相手の望みを聞いてから行動したいです。（2年男子）
- ・浦野さんが避難所で出会った方々の声を知って、避難所には多様な人が集まるけど、みんなで協力し支え合っていかなければいけないことが分かりました。今後の日常生活でも、仲間と仲良く関わりあって過ごしていきたいです。（3年女子）

【保護者の感想】

- ・「タンスがなかったら、父は生きていたかも」という話を聞いて、日常で当たり前に使っているものが自分や家族の命を数秒で奪ってしまうことや、時には大切な人を見捨てる、見殺しにしなければならないこともあると知って、災害の恐ろしさを再確認しました。家族に今日の話をして、助け合いの素晴らしさや命の大切さについて話し合いたいと思いました。
- ・自分が体験していないから気づいていないだけで、災害はとても怖いもので、人を悲しませるものであることを、より強く感じました。命と暮らしを守るために、家族と話し合います。

【取材を終えて】

能登半島地震の際、旭ヶ丘中学校 PTA は、NPO 法人レスキューストックヤードを通じて支援物資や義援金を送られました。今回、そのご縁もあって講演会が実現しました。

当日は、学校運営協議会委員の方々も参加され、人との関わりや生きる権利の大切さを、地域や親子で考える貴重な機会になったことと思います。